

●地域おこしに雪活用

日本最南端のスキー場が一九九〇(平成二)年十二月二十四日、五ヶ瀬町鞍岡にオープンした。「五ヶ瀬ハイランドスキー場」。雄大な阿蘇、久住の連山から雲仙まで、大パノラマが眺望できる九州のど真ん中にあり、例年十二月上旬から春の雪解けまでのシーズン中は、カラフルなウェアに身を包んだスキーヤーたちの歓声が、向坂山(一、六八四^{メートル})一帯に響く。

オープンまでには当時の藤田唯重五ヶ瀬町長や、村おこしにスキー場建設を、と立ち上がり、雪の山道を気象観測のため、かんじきを履いて五年間も通い続けた地元青年グループなど、関係者の苦勞があった。

九州山地の中でも鞍岡地区は降雪地帯で知られる。町史によると二〇(大正九)年一月の積雪は約一^{メートル}に達し、交通途絶。また六三(昭和三十八)年には元日から四十三日間も降雪が続

き、深さ三^{メートル}に達したところもあった。この大雪の中で血清が必要な重病人が出た。新田原航空自衛隊から三機が飛来、雪原へ血清を投下したという。

冬は雪に閉ざされる鞍岡で、この雪を地域おこしに使うと始まったのが「南国のスキー場」づくりだった。道の整備から始まり、ゲレンデ、リフトの建設など、スキー場を地域づくりの核に位置付けた町ぐるみの熱意がオープンに導く原動力となった。

スキー場へは、高千穂町経由と九州自動車道・松橋インターからのルートがある。鞍岡・本屋敷のシャトルバス発着所から約二十分でカシバル峠に着く。峠には駐車場もあり、約四百五十台が駐車できる。ここから入場リフトで十三分。そこはもう白銀の世界。シュプールを描くスキーヤーたちを見ると、ここが南国宮崎な



ハイランドスキー場。白銀にスキーヤーの歓声が響く

のかと錯覚する。

木立を切り開いた最上部・標高千六百十^{メートル}からのゲレンデは初級、中級、上級者向けに整備されている。初級、中級者向けが延長千^{メートル}、平均斜度一三度のパラダイスコース。上級者向けが延長六百五十^{メートル}、平均斜度二五度、最大三〇度までの変化に富んだダイナミックコース。

若者に人気があるのがスノーボードやモーグル。家族連れには、そりで楽しめるファミリーゲレンデもある。入場は手ぶらでも、スキーセンターで一式レンタルできる。

南国のスキー場は確実に過疎の町に活気を生み出した。今、町には民宿が立ち、シーズン中約六万人のスキー客を呼び込んでいる。

確井哲也